

JF共済 2022年度「事業概要」のご報告

JF共済 2022年度の事業概要をご報告いたします。

これからも、JF共済は相互扶助の理念にもとづき、組合員、ご契約者のみなさまの暮らしの安心としあわせづくりを追求してまいります。



JF共済（JF共水連）の健全性・安定性は…

**支払余力（ソルベンシー・マージン）比率は、
経営の健全な水準を大きく超えています**

2022年度末のJF共済の支払余力（ソルベンシー・マージン）比率は、1,774.5%となっています。

これは経営の健全な水準とされる200%を大きく超えており、十分な支払余力を確保しています。

*支払余力（ソルベンシー・マージン）比率とは、通常の予測を超えて発生する諸リスクに備えて、どのくらいの支払余力（ソルベンシー・マージン）があるかを判断するための行政監督上の指標のひとつです。なお、この比率は、JF共水連が生命共済と損害共済を兼営していることから、民間の生命保険会社、損害保険会社のソルベンシー・マージン比率と単純に比較することはできません。

支払余力（ソルベンシー・マージン）比率

1,774.5%

●支払余力（ソルベンシー・マージン）比率（%）

$$= \frac{\text{支払余力（ソルベンシー・マージン）総額}}{\text{リスクの合計額} \times \frac{1}{2}} \times 100$$

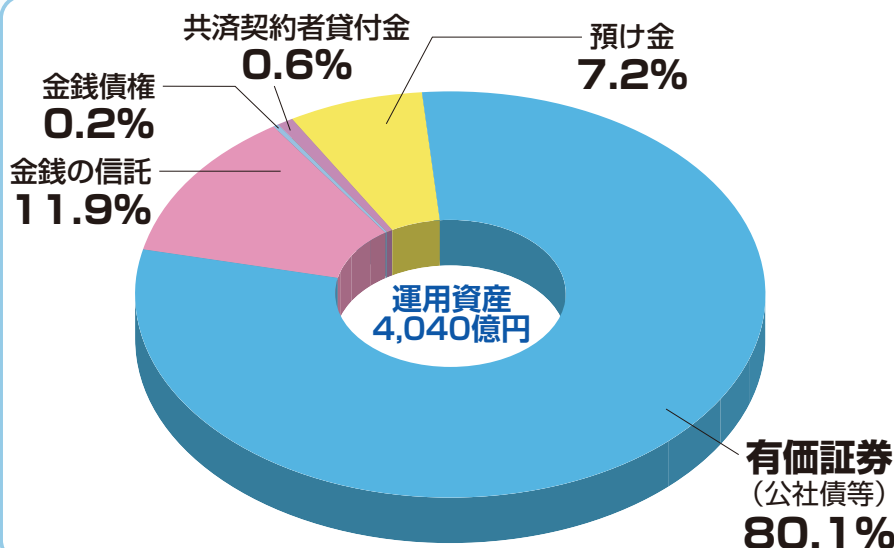
参考：2021年度末 1,684.9%

長期安定的な資産運用につとめています

総資産

4,327 億円

JF共水連は、総資産のうち4,040億円の運用資産について、国債や特別法人債を主とする公社債を中心に長期安定的な運用を行っています。



2022年度 実績概要のご報告

多くの方を守る保障

JF共済の契約件数

51万件

長期共済の新規保障共済金額

1,692億円

ひとの保障の保有保障共済金額

1兆9,720億円

ひとの保障の受入共済掛金

335億円

いへの補償の保有補償共済金額

2兆3,377億円

いへの補償の受入共済掛金

96億円

- 「長期共済」とは普通厚生共済（チョコー）と生活総合共済（くらし）の合計を示します。
- 「ひとの保障」とは普通厚生共済（チョコー）と乗組員厚生共済（ノリコー）の合計を示し、「いへの補償」とは生活総合共済（くらし）と火災共済（カサイ）の合計を示します。
- 「受入共済掛金」とはご契約者様からお払込みいただいた共済掛金の合計額を示します。

この1年間でお役に立った共済金

事故・満期 合計で **490億円**

普通厚生共済
(チョコー)

事故時のお支払い 満期時のお支払い

87億円 292億円

生活総合共済
(くらし)

事故時のお支払い 満期時のお支払い

26億円 27億円

乗組員厚生共済
(ノリコー)

お支払い

9億円

その他共済計
(カサイ他)

お支払い

46億円

新型コロナウイルス感染症で お支払いした共済金

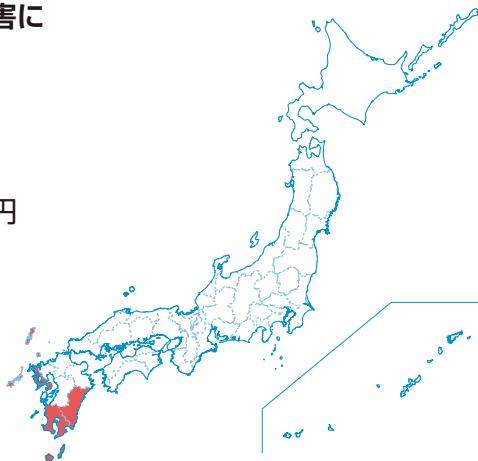
2020年度から2022年度まで3年間での新型コロナウイルス感染症によるお支払い額 **14.5億円** (2万件)

過去の自然災害でお支払いした共済金

2022年度の自然災害に
よるお支払い額

台風11号 2.2億円
(長崎)

台風14号 10.5億円
(長崎、宮崎、鹿児島)



(2022年度末現在)

JF共済は、以下のような巨大災害
に対し、確実な共済金のお支払いを
行ってまいりました。

2020年	台風9、10号	15.9億円
2019年	台風15号	22.5億円
2018年	台風21、24号	19.7億円
2011年	東日本大震災	241億円

